

第7期第4回横浜市子ども・子育て会議（総会） 会議録	
日 時	令和7年8月20日（水）午後6時00分から午後7時20分まで
開催場所	横浜市庁舎18階みなと1・2・3会議室（ハイブリッド会議）
出席者	大日向雅美委員長、明石要一副委員長、上岡朋子委員、金井宏之委員、上澤智子委員、柴田康光委員、清水純也委員、高杉陽子委員、田中 健委員、津富 宏委員、丹羽由貴委員、辺見伸一委員、堀 聡子委員、松井陽子委員、三浦尚美委員、水谷隆史委員
欠席者	青山鉄兵委員、石井章仁委員、大庭良治委員、萩原建次郎委員
開催形態	公開（傍聴者0人）
議 題	1 部会からの報告 2 審議事項 （1）第2期横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について（令和6年度分） 3 その他
決定事項等	
1 部会から報告 資料に基づき報告 ○三浦委員 キッズクラブのお弁当の件で、昨年の夏、お弁当を実際に見ることがありまして、地味なお弁当というのは実は私が発言したんですが、今年の夏もお弁当を見る機会がありましたが、とてもおいしそうに改善されていました。また、ご飯の量も小、中、大と選べるようになっていて、そもそも昨年お弁当が始まったこと自体もすごいスピードだと感じていて、今年さらに改善が加えられていて、本当にその場その場で対応してくださっているんだなということが目に見えてとてもうれしく思いました。 ○上岡委員 今回の報告の中に含まれていることではないのですが、今キッズクラブのお話が出たので少し気になったことがあり、お伺いできればと思います。最近、キッズクラブに入っているこどもの数がすごく多いという話をよく耳にしまして、ある区のある小学校のところだと、100人、200人といったすごく大勢のこどもたちが、そこまで広くはないスペースのところに入らなければならなくて、天気がよければ外で遊んだりできるので大丈夫ですが、雨の日など、屋内にすし詰めに入るような感じになってしまうと二、三度、私の耳に入ったので、状況など分かれば簡単に教えていただければと思います。 ○事務局 キッズクラブによって、かなり人数も増えていて、学校の施設を活用しておりますので、実際にはお天気などにもよって狭いという状況もございます。学校にご理解いただいてご協力いただきながら、授業の状況によって空き教室を活用したり、特別室を使わせていただいたり、本当にどうしても難しい場合はプレハブ校舎を建てるなど、こどもたちが安全に楽しく過ごせるように場所の確保を進めているところです。 ○上岡委員 なかなか状況がどんどん変わってきてしまっているもので、すぐのご対応も難しいと思いますが、もともと児童館がないといった課題もずっと言われ続けていることで、なかなか友達同士が屋内で遊べる場所がなくて、でも今は夏とかは暑過ぎて、とてもではないけれども、公園で遊べるような気温でもないもので、小学生の居場所について、また引き続きご検討いただければと思います。	

○上澤委員 障害児の相談支援のことについてご報告がありましたが、セルフプランが多過ぎるということで、どうかしていただきたいと思っている状況でございます。先日、こども家庭庁からの報道で見たのですが、サービスの利用が増えたことで、適切なアセスメントがなくサービス等利用計画がつくられていることが問題視されているということで、障害児通所サービスの支給決定の要領を見直し、プロセスを標準化するというのを拝見しました。市町村にアドバイザーを派遣して助成する事業も今後行っていくというように書いてありましたが、横浜市のほうにも何かそういった情報が来ているなどありましたら教えてください。

○事務局 こども家庭庁からの情報について、ホームページ等で確認させていただいています。国のアドバイザー制度等を使うことは今の段階では特に考えていませんが、関係の情報などを集めながら、横浜で少しセルフプランが多いということは課題として認識していますので、何か対策が打てないか、あるいはそういった質の高いものがアドバイザーなどによりできないか引き続き検討していきたいと考えております。

○上澤委員 先日の子育て部会で、横浜市は人口が多いので、2割でもほかのところに比べたら人数的にはやっているというようなお話があったと思いますが、やはり子育てしたいまちということで、今後人口はどんどん増やしていきたいという方向だと思います。そういった中で、子育てに関する事業のところで全国からかなり離されて、2割というのは最下位だと思います。ほかの東京や埼玉、千葉などでも、8割がセルフプランで2割が相談支援というようなところはないと思いますので、こどもに関する事業のところで全国で最下位というのは、横浜市民として障害児の相談支援というのが取り残されてしまっているという思いがあります。先ほど、こどものためにとお話があったと思います。親を批判するわけではないですが、親がつくるセルフプランですと、どうしても働きたい親のニーズにだけ寄り添ってしまうという側面があると思いますので、専門員の方と共につくるサービス等利用計画というものが、やはり言葉、自分の気持ちとかも言えないこどもたちでありますので、とても大切だと思います。わくわくプランでもこどものためにということで、こどもたちの声を聞くということでやってくださっていると思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

○清水委員 放課後部会のアンケートがとても重要だったというお話があったと思いますが、このアンケートは、こどもの声を聞きましようとなっているため、対象がこどもなのか、保護者なのかと思ったので、どちらか、もしくは両方なのか教えてください。

○事務局 令和6年度のアンケート調査は、保護者、クラブとお子様にそれぞれ聞いています。保護者については、ご利用の方の保護者を対象にして約7万人、回答数が約8000人、こどもに関してはクラブで直接話を伺うようにして回答していただき、約300人回答をいただいています。クラブの職員は、電子申請によるアンケート調査を実施しています。

3 審議事項

(1) 第2期横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について（令和6年度分）

事務局から資料に基づき報告

質疑は施策1から3、4から6、7から9の三分割に分け、順次行うこととした。

施策1から3について

○田中委員 基本施策3のところで意見ですが、38ページの指標の進捗、自立に向けて改善が見られた、2番のほうでは生活習慣に改善が見られたとあります。児童養護施設の職員として、こんな簡単に改善が見られると評価するのは非常に難しいと思うので、何をもって改善が見られたのか教えてほ

しいです。例えば歯磨きをするようになったということ、こどもが毎日やるようになったなどそういうアンケートを取って改善が見られたということなのか、こういう場所でちゃんと歯磨きしていますという職員の方からの報告をもって改善が見られたということになっているのか。利用している方も家で生活しているわけですので、家でそれが継続してできているかをもって改善ということなのではないかと少し疑問があったので、何をもって改善と言われているのかというのが知りたくて質問しました。

○事務局 寄り添い型生活支援事業については、おっしゃるとおり施設の職員の方にそれぞれ、先ほどの歯磨き習慣のことなども含め、改善点が見られているかどうかをお聞きした形でこういった評価をしています。ただ一方で、寄り添い型生活支援事業は、基本的には毎日ではなく、週2回の利用で、それを家庭でもできるだけやるようにということで、事業者の方から指導いただいた結果として改善が見られているというご回答になります。細かいところは、これまでの主な取組の4に書かせていただいている内容となっており、簡単な調理、歯磨き、宿題などということで、その確認をしております。

○田中委員 あくまで一意見ですが、私は24時間365日の児童養護施設の職員として、簡単に改善することが非常に難しい方たちも含めて、利用されているのかなどいろいろ考えた時、そもそもこの指標だけ生活習慣に改善が見られたということであって、寄り添い型生活支援事業を利用した回数とかでないことは気になっていて、もちろん生活習慣を改善することが大事なので、指標にしているということはすごく大事なことで私は思っています。きちんと質が変わっているかどうかであって、利用した回数ではなく、改善が見られたということで質の評価をする、指標を立てるのは大事だと思いますが、一方で、そんな簡単に改善ということはないのではないかと、私は一市民としても専門職としても思ったとき、どのように指標を評価するのかという点が気になったので、今後みんなで考えていくことかなと思いました。

施策4から6について

○三浦委員 1つ質問ですが、42ページの今後の取組の方向性の2ですが、障害児相談支援事業補助金というのがありますが、どういう補助金なのか教えていただけたらと思います。

○事務局 障害児相談支援事業を行っていただいている事業所に対して、重度の障害があるお子様への相談支援などの計画を立てた際に、一定の金額を補助しているものになります。また、例えば本市独自の話で言いますと、地域療育センターなどで計画相談を立てている方がおりますが、小学校期に入られた段階でこの相談から離れるという方もいますので、事業所に対し、新たに小学校期まで引き受けてくれた事業者に加算というようなものを補助している内容になっています。

○上澤委員 今お話しいただいた43ページの3の障害児通所支援事業所等の拡充と質の向上について、①の児童発達支援と②の放課後等デイサービスは、事業所数で何か所というような記載になっていますが、相談支援事業のほうは、相談支援事業所の数ではなく、人数として記載されていて、相談支援事業所がやはり増えないというのが親にとってはとても悩みであり、今、幼児で小学校に上がるときに計画相談から離れるというお話がありましたが、離れたくて離れているわけではなく、療育センターの計画相談が幼児で終わりなんです。それで、小学校以降を引き受けてくれる相談支援事業所が見つからないから離れてしまっている、そこで切れ目のない支援が終わってしまっているという実情がありますので、児童発達支援や放課後等デイサービスと同じように、件数、何か所かにし

ていただけたらよかったですと個人的には思うのですが、ここだけ人数になっている理由が分かればお願いします。

○事務局 表記の仕方については、ご報告する際などには箇所数なども意識しながらのご報告ができるよう努めたいと思います。また、人数なのか、箇所数なのかでのご報告に関しては、例えば障害者プラン等では人数と箇所数、通所あるいは放課後等デイサービスなどについても人数でお示ししているときもあれば、箇所数でお示ししているときもある状況です。箇所数等がすぐ出ず申し訳ないんですが、把握はさせていただいておりますので、今後こういった場でご報告させていただく際には、表現の仕方に気を付けたいと思います。

○上澤委員 幼児は療育センターで計画相談をしてくれますが、外来のこどもたちではなく、療育センターの通園に通っているこどもたちのみの計画相談になると思います。そこから卒業したこどもたちは、計画相談から離れざるを得ない状況があると思いますが、計画相談はそもそもそういうものではなく、放課後等デイサービスではそこで計画相談をやっており、放課後等デイサービス卒業後も計画相談のほうは継続してくれます。それで家庭訪問だったり、モニタリングだったりというものがあり、継続して相談に乗ってもらえたりがあるので、計画相談について引き続きよろしく願いいたします。

施策7から9について

○大日向委員長 この審議は事務局案をご承認いただいたということでよろしいでしょうか

(異議なし)

3 その他

事務局から資料9～10について報告

○田中委員 モデル事業を充実することはすごくいいことだという前提ですが、2つ目にあった資料10の2番目の市庁舎内での土日祝日預かりですが、無茶な注文かもしれませんが、これは桜木町にあるわけで、ショッピングなども含めて利用できるとかそういうこともあると思いますが、本当に相談したい、こういう悩みがあってという親御さんがいらっしゃることもあると思います。せっかくモデル事業をやるのであれば、ワンストップサービスではないですが、土日祝日に福祉関係職員が1人いて相談ができる、こどもを預けるだけではなく、預かっている間に親御さんも相談もできますよといった、本当に横浜市がこどもにとってすごく子育てしやすいまちだと保護者も受け取るのではないかなと思ったので、年に3回でもやってみて、相談がなかったとしても、そういう検証するとかもあっていいのかなと思いました。

○事務局 土日祝預かり事業に関して、ワンストップ窓口のようなサービス、それを例えば年に何回かというようなことでご提案いただきましたが、この市庁舎内での土日祝預かりの中では、もちろん施設長などがいますので、簡単な保育上の悩みなどの相談に応じるということはもちろんできるかと思っています。年に何回というような形や、ワンストップ機能を備えてというところまでは、現状事業の中でそこまでカバーしてはいないというところがございますので、いただいたご意見につきましては、今後の一時預かりの充実といった中での検討材料とさせていただきます。

○清水委員 いざというときの一時預かり事業について、保育・教育部会の中でも話題に出たときに、危惧す

るという意見が多かったことも報告したいと思います。もちろん本当に困っている保護者を応援したり、今田中委員がおっしゃったような、そこに子育て支援ではないけれど、アドバイスをしてくれるような方がいることは、本当に困った保護者に届けるというのはとても大事なことだと思いますが、それがいざというところが緩んだり外れていくと、こどもにとってはどうかなと。

初めて行く場所で、急に普段通っていないところに置いていかれ、お母さんもお父さんもいなくなってしまうというのは、こどもにとってはどうかという立場でいくと、今、育休で男性が、まだ時間が少ないですが増えていて、少しずつこどもに向いていっているのかなと思っています。いざが取れてしまうという前提になりますが、こどもにとっては危惧するということ、やはりほかの委員の方の意見にもありましたが、当日面談すればもうそのまま預けられますよという施設もあって、その施設はたしか今年度開所したばかりのところで、開所したばかりがベテランの先生がいないのかといったらそんなことはないと思いますが、やはりこういう事業を始めるということは、そこに取り組むには、こどもが来ないといけな。そうしないと運営できないという話でいくと、私もそうですが、何とか預かれる方法を事業所がやらなければいけなくなる。となると、親子の関係性、アタッチメントがどうなっていくかということもとても大事なところだと思うので、そこもご意見として出ていたし、私も発言させてもらったので、ご報告というか、ご意見をさせていただきます。

○大日向委員長 本当に横浜市はとっても充実した支援策を次々に打ち出していらしてすばらしいと思います。今、清水委員から、清水委員をはじめとして部会でのご意見ということでしょうかありましたところ、親子のために推進していただきたい支援と、どこまでその支援が本当に必要か、どこかで踏みとどまって考えるという局面にも今至っているというご意見でした。たしかに全国的に見てもそれは言えるかと思いますが、そのときに大切な1つの基準は、こどものためということ、そして、親がハッピーに子育てに携わるためにということ、この二つが基準になるかと思います。横浜市がこれだけすばらしいことをしていることを評価したうえで、今後はそうした視点をもって施策を推進していただければなお大変ありがたいと思います。

○清水委員 今、こども青少年局の方々が検討してくださって始まっているのが、中高生のボランティア活動というのがスタートしています。私たち保育現場にすると、幼稚園の先生、保育園の先生になってもいいかなと思う子たち、小学校のときは憧れたりしてくれるけれど、高校などの進路指導の先生が、ネガティブなことを言うといった噂もありますが、実際、処遇改善など、国も横浜市もとても応援してくれるので、充実できるように働き方改革を私たちもやっています。ボランティアとして関わることが、「ああ、そういえば小学校のときに思ったな」という、保育・教育に携わる人たちに育ってほしいという取組でおやりになってくれているんです。

実際当園にも、夏休みですが、もう既に10人ぐらい来ていて、卒園児もいれば、その子が友人を連れてきてとか、アンケートを書いてもらうと「すごいよかった」と、「また来たいです」と書いてくれるし、こども、園児たちも「お兄さん先生」、「お姉さん先生」と言ってもう大喜びなんです。もちろんそういう仕事に就いてくれると、別の仕事と置いていたけれども、そういう仕事もいいなという感想を書してくれた人もいます。ただ、中高生の頃に小さい子と関わると母性、父性が育つというのもよく聞きます。そういう意味でいけば、もしかしたら長い目で見れば少子化対策にもなるのかなと勝手に私は夢を見ているので、何かそういうのをやっているらしいよと広まって、夏休みだけではなくっていくといいなと思い共有してもらいました。

○事務局	<p>今お話のございました中学生、高校生向けのボランティア体験の実績について、夏休みがまだ終了していない学校もありますので、途中経過のご報告になります。まず7月1日から8月18日まで募集を市のホームページを通じて、515名の方からいただきました。傾向として、男性のお申込みが17%、女性のお申込みが約83%です。中学校、高校の校種別で申し上げますと、実際に参加された数で、横浜市立の中学校で203名、41%、私立の高校で173名の方、35%というような校種の方のお申込みが多かったような状況です。保育園、幼稚園の割合で申し上げますと、保育園に参加された方が364名、75%、幼稚園に参加された方が121名、25%というような割合になっております。</p> <p>委員のお話にもございましたが、参加された中学、高校の生徒の皆さん、それから、受入れをしていただいた園の皆様からも、好評のお返事、反応をいただいております。この状況を踏まえて、通年でお受けするという事で始めて、夏休みをキャンペーンとして強化した取組にしました。こういったお声や反応をしっかりと受け止めて、次年度以降も継続して取組を続けられるといいのかなと思っております。</p>
○大日向委員長	今年度から始められたということですか。
○事務局	はい。
○事務局	<p>最後に次回の総会についてご連絡をさせていただきます。</p> <p>次回の総会は11月27日18時30分より開催をさせていただく予定です。会議の参加方法に関する確認等は別途ご連絡をさせていただきます。</p>
閉会	
資料	<p>資料1 第7期横浜市子ども・子育て会議 委員名簿・部会名簿</p> <p>資料2 第7期横浜市子ども・子育て会議 事務局名簿</p> <p>資料3 横浜市子ども・子育て会議条例、横浜市子ども・子育て会議運営要綱</p> <p>資料4 部会報告 子育て部会</p> <p>資料5 部会報告 保育・教育部会</p> <p>資料6 部会報告 放課後部会</p> <p>資料7 部会報告 青少年部会</p> <p>資料8 第2期横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について（令和6年度分）</p> <p>資料9 放課後キッズクラブ・放課後児童クラブでの夏休み中の昼食提供を更に充実させます 【記者発表】</p> <p>資料10 一時預かりの充実に向けたモデル事業を始めます！【記者発表】</p>
特記事項	なし